＜特別寄稿＞

正山征洋先生のご厚意で所蔵されている「ボタニカルアート」の一部を紹介していただく事になりました。大変貴重で興味深く、芸術性も高い作品に加え先生自ら解説されています。

ボタニカルアート

九州大学名誉教授・長崎国際大学名誉教授

正山征洋先生

第38回　チャノキ

チャノキはツバキ科に属する灌木です。画の下に学名がThea viridisと書かれていますが、現在はCamelia sinensisとなっています。

チャノキは中国原産で、中国の唐の時代に陸羽が『茶経』を著し茶の種類や精製法を詳しく述べているので、中国では既に喫茶の風習があったものと考えられています。日本へは建久2年（1191年）栄西和上により茶の種子がもたらされ各地で栽培が広がったと言われています。現在では完全発酵茶（紅茶等）から無発酵茶（緑茶）、中間発酵茶（ウーロン茶等）まで色々な種類の茶が市販されています。

緑茶の健康に対する有用性は静岡県で茶を多く飲む地域と余り飲まない地域の胃がんの発症率が前者で低いことが疫学調査により判明しました。この事がきっかけとなり緑茶の各種疾患に対する活性が研究されるようになりました。循環系に対する疫学調査が行われ、飲まない群に比べ、1日4杯以上飲む群では全循環器疾患が明らかに低くなっていました。宮城県下で行われたコホート研究で1日5杯以上緑茶を飲む人は認知症発症リスクが27%減少しました。現在、緑茶と認知症との関係についての研究が広く行われています。

ビッツによる1800年の作品です。